

③資料作成・公開に関する事業一覧

プロジェクト名	担当部門	頁
文化財情報基盤の整備・ウェブサイトの運用（企06）	企画情報部	57
専門的アーカイブの拡充（資料閲覧室運営）（企07）	企画情報部	59
無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化（無03）	無形文化遺産部	60
広報企画事業（ニュースレター・概要・年報）（企08）	企画情報部	61

文化財情報基盤の整備・ウェブサイトの運用 (③企06-13-3/5)

目 的

文化財関係の情報を収集して積極的に発信するため、ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実を図り、システム面から文化財に関する専門的アーカイブの拡充、データベースの充実を支援する。

成 果

1. 情報システムの整備

情報システムの整備については、広報委員会のLAN委員、各部・センターのLAN担当で検討のうえ実施している。

(1)平成25年度にハードウェア保守の期限が切れるネットワーク機器（所内外間での情報のアクセスを制御するファイアウォール）を更新した。(2)2013（平成25）年11月、インターネット接続のために研究機関等で共同利用しているSINETの接続先を東京大学ノードから東京データセンターに変更するのに伴い、専用線接続から公衆回線（フレッツ光）に変更した。このことで利用料が低減され、接続速度は従来通りもしくは向上した。(3)職員が使用するコンピュータ用のウィルス駆除ソフトウェアについて、Kaspersky Anti-Virus及びESET NOD32の2種類のライセンスを2013（平成25）年6月から7月にかけて更新し、最新のウィルス定義ファイルによる職員のコンピュータの保護を図った。(4)2013（平成25）年9月に、所外からのノートPCやタブレット端末等でのグループウェア（ガルーン）閲覧のため、VPN接続のための専用ソフトウェアを導入した。

2. ウェブサイトの運用

研究所全体の広報、研究情報の発信としてウェブサイトの運用を行っている。各部・センターのサイトは各担当者が個別に管理しているが、行事案内や出版物情報は研究所トップで周知するなど利便性向上を図っている。

(1)リニューアル：昨年度に引き続きウェブサイトのトップページ及び案内、活動報告等全所的な情報に関するページのレイアウトを変更し、各種の情報へのアクセスの利便性を向上させた。研究所の業務紹介としては、東京文化財研究所の刊行物（図書）について25年度までのデータを追加掲載した。(2)データ集・データベース更新：「日本美術年鑑」所載物故記事等のテキストデータや、画像データは和田新撮影画像、当研究所所蔵ガラス乾板の画像等のメタデータを含む画像データのデータベース化・検索可能な形での公開を容易にするWordpressを用いた情報公開について公開の方法について検討を行い、所内で公開した。(3)定期・不定期の情報更新：各部・センターの調査研究、会議や研究会の開催等の活動について、日本語及び英語による「活動報告」として毎月掲載した。研究会開催や職員募集、入札公告などの情報については、依頼があり次第ただちに掲載した。また、ウェブサイトの内容の充実を図り、開所記念展覧会目録など、当研究所で蓄積しているデータの公開を実施した。(4)メールマガジンの発信：活動報告を含むウェブサイトの更新情報や、研究会開催、職員募集や入札公告などの情報を登録者に対して直接発信する手段としてメールマガジンの送信を随時行い、平成25年度は11件を送信した。(5)アクセス数：ホームページのアクセス（訪問者数）は1,806,200件であった。

3. 東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業（文化財レスキュー事業）への対応

東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会が作成した報告書3点をウェブサイトで公開した。上記の報告書のうち、2年間の活動に関する年表と活動場所を示す地図は別途日本語・英語でサイトを作成し、

③資料作成・公開 Area13, 20

ウェブでの閲覧に最適化した。

ホームページの主な更新履歴（定期刊行物、活動報告、公募情報を除く）

13.04.22	デジタルブック版『未来につなぐ人類の技 Conservation of Industrial Heritage』近代文化遺産研究室報告書 公開	保存修復科学センター
13.05.14	スタンレー・アベ氏講演会 開催案内	企画情報部
13.05.17	"Workshop on the Conservation and Restoration of Urushi (Japanese Lacquer Ware)" 開催案内	文化遺産国際協力センター
13.08.29	第13回研究会「文化遺産保護の新たな担い手―多様化するニーズへの挑戦―」 開催案内	コンソーシアム
13.08.30	第47回オープンレクチャー 開催案内	企画情報部
13.09.05	第7回文化財における伝統技術及び材料に関する研究会 開催案内	保存修復科学センター
13.09.18	文化財レスキュー事業 報告 公開	救援委員会
13.10.04	世界遺産シンポジウム「世界遺産の未来―文化遺産の保護と日本の国際協力」 開催案内	コンソーシアム
13.10.15	シンポジウム「シリア復興と文化遺産」 開催案内	文化遺産国際協力センター
13.10.15	第37回近代の文化遺産の保存と修復に関する研究会 開催案内	企画情報部
13.11.08	第27回近代の文化遺産の保存と修復に関する研究会 開催案内	保存修復科学センター
13.12.12	研究会「アート・アーカイヴの諸相」 開催案内	企画情報部
13.12.24	国際研修「紙の保存と修復 2014」 開催案内	文化遺産国際協力センター
14.01.14	「文化財の保存環境」に関する研究会―濃度予測と空気環境清浄化技術の評価― 開催案内	保存修復科学センター
14.01.17	文化財の放射線対策に関する研究会 開催案内	保存修復科学センター
14.01.31	研究報告会「敦煌壁画を見つめ直す―莫高窟第285窟壁画の科学的復元研究―」 開催案内	保存修復科学センター
14.02.07	研究会「ミャンマーにおける文化遺産保護の現状と課題」 開催案内	文化遺産国際協力センター
14.02.14	第14回研究会「文化遺産保護の国際動向」 開催案内	コンソーシアム

アクセスランキング

1	全体index	6	『日本美術年鑑』所載物故記事
2	黒田記念館資料編（日記、書簡、作品一覧等）	7	『無形文化遺産研究報告』PDF
3	『保存科学』PDF	8	東京文化財研究所全体（日本語）
4	イメージギャラリー	9	黒田記念館全体
5	企画情報部全体	10	活動報告（日本語）

研究組織

○二神葉子、田中淳、山梨絵美子、津田徹英、塩谷純、綿田稔、小林公治、小林達朗、皿井舞、城野誠治、中村明子*1、井上さやか*1、橘川英規、福永八朗、小山田智寛*2、高橋佑太*2（以上、企画情報部）
 広報委員（LAN）：川野邊渉（文化遺産国際協力センター長） 各部門LAN担当：高砂健介（研究支援推進部）、綿田稔（企画情報部）、飯島満（無形文化遺産部）、吉田直人（保存修復科学センター）、加藤雅人（文化遺産国際協力センター）

*1 平成25年10月まで *2 平成25年7月から

専門的アーカイブの拡充（資料閲覧室運営）（③企07-13-3/5）

目 的

文化財関連資料の公開機関としての周知の広がりを踏まえ、(1)受け入れた文化財関連の図書などの文字資料や、作成したアナログ・デジタル画像資料の登録管理、(2)閲覧室で月・水・金の週3回の一般利用者へ所蔵資料の提供、(3)データベースの作成、検索システムの構築・ホームページ上での諸情報の提供を通常業務とするとともに、提供する資料や情報の質に主眼を置き、より専門性の高い文化財関連資料や情報の収集・構築・公開の場として専門的アーカイブの充実を図ることを目的とする。

成 果

1. 資料閲覧室の運営

文化財に関する諸資料の収集・管理・公開・データベースの構築・運用を基本に、より充実したアーカイブ形成に努めた。その一環として、(1)インターネット上での公開を目指して朝日新聞社版『日本美術年鑑』のテキスト化を行った。(2)断片化しがちな情報登録システムの整理統合に着手し、数種あった文献データベースを整理統合した上で、外部公開のインターフェイスを一新し、従来の文献データベースを統合した「文化財関係文献データベース（統合試行版）」の運用を開始した。(3)国内外の関連機関との協力関係構築への取り組みと有効な資料公開システム構築のため、イギリスのセインズベリー日本藝術研究所と協約を結び、「日本芸術研究の基盤形成事業」を開始した。(4)整理室に書架を増設した。

2. 画像情報室

他部・センター、他機関との共同調査研究により文化財の画像資料の収集・作成を行った。通常フルカラー画像撮影件数6,953件、赤外136件、蛍光336件で、このほかガラス乾板10,405件の撮影を行った。

3. 企画情報部にて作成・更新中のデータベース

標記のデータベースは以下の36種である。

- | | |
|-------------------|----------------------|
| 1) 所蔵和漢書（～12） | 19) 展覧会（02まで） |
| 2) 受入和漢書（13年度分） | 20) 展覧会（03以降） |
| 3) 所蔵洋書 | 21) 近現代作家名 |
| 4) 所蔵簡易図書 | 22) 近現代展覧会開催情報（35以降） |
| 5) 売立目録 | 23) 写真原板 |
| 6) 所蔵美術館博物館収蔵目録 | 24) キャビネット写真 |
| 7) 和雑誌誌名 | 25) 文化財関係文献目録 |
| 8) 所蔵洋雑誌誌名 | 26) 美術館博物館名 |
| 9) 所蔵中国雑誌誌名 | 27) 東京文化財研究所年表 |
| 10) 所蔵韓国雑誌誌名 | 28) 撮影調査票 |
| 11) 所蔵和雑誌巻号（～02） | 29) 古美術展覧会開催情報 |
| 12) 所蔵洋雑誌巻号（～05） | 30) 物故者記事 |
| 13) 所蔵和雑誌巻号（03以降） | 31) 美術懇話会 |
| 14) 所蔵洋雑誌巻号（06以降） | 32) 開所記念展覧会出品目録 |
| 15) 所蔵中国雑誌巻号 | 33) 美術家美術関係者情報 |
| 16) 所蔵韓国雑誌巻号 | 34) 画廊情報 |
| 17) 所蔵地方公共団体刊行報告書 | 35) 美術史論壇 |
| 18) 所蔵香取秀真資料関係 | 36) 鈴木敬旧蔵資料目録 |

4. インターネット公開中の研究資料検索システムに提供中のデータベース

標記のデータベースには以下の12種がある。文献情報を統合したため前年度より件数は減った。

- | | |
|-------------|--------------------|
| 1) 美術関係図書 | 7) 写真原板 |
| 2) 伝統芸能関係図書 | 8) 美術家・美術関係者資料 |
| 3) 保存修復関係図書 | 9) 画廊資料 |
| 4) 売立目録 | 10) 文化財関係文献（統合試行版） |
| 5) 展覧会カタログ | 11) 近現代美術展覧会開催情報 |
| 6) 和雑誌 | 12) 伝統楽器情報 |

5. 図書受入数

和漢書901件、洋書134件、展覧会図録・報告書等5,475件、雑誌9,306件（受入総数15,816件）

38種の目録所在情報

6. 資料閲覧室の利用状況

公開日総数137日、利用者年間合計977人

研究組織

- 綿田稔、田中淳、山梨絵美子、二神葉子、小林公治、津田徹英、塩谷純、小林達朗、皿井舞、吉田千鶴子、城野誠治、井上さやか、橘川英規、中村明子、福永八朗（以上、企画情報部）、飯島満（無形文化遺産部）*、佐野千絵（保存修復科学センター）*

*企画情報部併任

備考

本事業のうち、セインズベリー日本藝術研究所（イギリス・ノリッジ）での協定書調印式への所長の出席は所長裁量経費「セインズベリー日本藝術研究所との協定書調印式」（所長05）により、書架の増設は所長裁量経費「図書資料整理室の書架増設」（所長12）による。

無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化（③無03-12-3/5）

目的

無形文化遺産部では、旧芸能部時代から、文献資料のほかに、音声・画像資料を積極的に収集してきた。これらの記録は極めて貴重であるが、記録メディアの進展に伴って、より好環境のもとに保存してゆく必要がある。このため無形文化遺産部では、画像・音声・映像資料の媒体転換を進めてきたが、将来的には、デジタル化された各種資料の集積によって、デジタル・アーカイブの開設を目指している。

成果

昨年度までに受入れ手続きが完了した資料の内、経年変化に伴う音質劣化が懸念されるオープンテープのデジタル化を昨年度に引き続き実施した。カセットテープに関しても、将来のデジタル化を視野に、収録内容の確認を含めた整理を行った。所蔵SPレコードの内、特殊な再生装置が必要な初期音盤の一部について、内容確認及び媒体変換を行った。

研究組織

- 石崎武志、高桑いづみ、飯島満、久保田裕道、菊池理予、今石みぎわ、橋本かおる、佐野真規（以上、無形文化遺産部）

広報企画事業（ニュースレター・概要・年報）（③企08-13-3/5）

目 的

本プロジェクトは研究所の業務に関する情報発信のうち特に紙媒体である『年報』『概要』『ニュース』、および不定期に作成するパンフレットなどの編集・刊行を実施する。また、エントランスにおけるパネル展示などを通じて、来訪者に対しても研究所の活動をわかりやすく伝えることを目指す。

成 果

1. 『年報』2012年度版の刊行

2013年5月31日付で年報を刊行した。2012年度版の構成は従来通り、機構、年度計画及びプロジェクト報告、その他の研究活動、個人の研究業績、研究交流、主な所蔵資料、研究所関係資料、東京文化財研究所プロジェクト索引とした。発行にあたっては、各部・センターの年報担当者が原稿のとりまとめを行った。

2. 『概要』2013年度版の刊行

「概要」2013年度版を刊行した。概要は日英2カ国語により、研究所の組織や活動内容を簡潔かつ写真を多用してわかりやすく紹介している。各ページの構成は概要担当広報委員、編集担当および各部・センターの概要担当者の協議によって決定し、原稿のとりまとめは、各部・センターの概要担当者が行った。

なお、「年報」「概要」いずれもPDFファイルでウェブサイトに掲載し、活動内容の情報公開に努めている。

3. 『東文研ニュース』の刊行

『東文研ニュース』を年3回発行した。基本的には、ウェブサイトに掲載した活動報告から四半期ごとの記事を掲載しているが、掲載する記事は各部・センターで選択している。この他、東文研ニュースには、特定のトピックについてまとめた紹介を行うコラムや刊行物の案内、人事異動などを掲載している。なお、54号から英語版と統合し、日本語・英語併記とした。

4. パネル展示の調整

1階エントランスロビーに研究成果を伝えるためのパネルを作成し、展示した。平成25年度は企画情報部による横山大観「山路」に関する展示を実施した。また、26年度に実施する文化遺産国際協力センターの「海外にある日本美術作品の修復事業」（仮題）に関する展示について、パネルを作成し展示準備を行った。

2013（平成25）年3月28日～2014（平成26）年4月 「山路」（企画情報部）

研究組織

○二神葉子、田中淳、山梨絵美子、津田徹英、塩谷純、綿田稔、小林公治、小林達朗、皿井舞、城野誠治、中村明子*1、井上さやか*1、橘川英規、福永八朗、小山田智寛*2、高橋佑太*2（以上、企画情報部）、広報委員（概要）：安孫子卓史*3、今城裕香*2（以上、研究支援推進部）、塩谷純（企画情報部）、高桑いづみ、今石みぎわ（以上、無形文化遺産部）、岡田健、佐藤嘉則（保存修復科学センター）、友田正彦（文化遺産国際協力センター）、広報委員（年報）：平出秀文、安孫子卓史*3、今城裕香*2（以上、研究支援推進部）、田中淳、皿井舞（企画情報部）、高桑いづみ（無形文化遺産部）、森井順之（保存修復科学センター）、山内和也（文化遺産国際協力センター）、広報委員（東文研ニュース）：安孫子卓史*3、今城裕香*2（以上、研究支援推進部）、山梨絵美子、津田徹英（企画情報部）、菊池理予（無形文化遺産部）、北野信彦（保存修復科学センター）、江村知子（文化遺産国際協力センター）

*1 平成25年10月まで *2 平成25年7月から *3 平成25年6月まで